



社会的責任経営委員会 (2008年度)

委員長 岩田 彰一郎

アスクル
取締役社長兼CEO

1950年大阪府生まれ。73年慶應義塾大学商学部卒業後、ライオン油脂(現ライオン)に入社、ヘアケア商品開発等を担当。86年プラス入社、92年プラスの新規事業アスクルの開始にあたりアスクル事業推進室室長に就任、97年アスクルの分社独立とともに取締役社長、2000年取締役社長兼CEOに就任。2003年経済同友会入会、2004年度より幹事、2008年度より副代表幹事。2003年度新規事業創生委員会副委員長、2005年度同友会起業フォーラム委員長、2006～2007年度ITによる社会変革委員会委員長、2008年度社会的責任経営委員会委員長、2009年度中堅・中小企業活性化委員会委員長。

副委員長(役職は4月23日現在)

木川 眞
(ヤマト運輸 取締役社長)

近藤 章
(AIGイースト・アジア・ホールディングス・マネジメント 副会長)

秦 喜秋
(三井住友海上火災保険 取締役会長)

原 直史
(ソニー 業務執行役員SVP)

平野 正雄
(カーライル・ジャパン・エルエルシー マネージングディレクター、日本共同代表)

藤本 孝
(東京電力 取締役副社長)

村上 輝康
(野村総合研究所 シニア・フェロー)

委員74名

「好循環型社会」を再構築し、健全で持続的成長可能な日本社会を取り戻す

格差社会から 層の厚い中産階級社会へ

世界的な景気後退のなかで、日本がもう一度活力を取り戻すには、経営者自身が「自らの社会的責任の重さ」を自覚し、持続可能な「好循環型社会」の構築へ勇気ある一歩を踏み出さなくてはなりません。

「好循環型社会」とは、企業の経営努力の成果を従業員に手厚く配分することで豊かな中産階級を創出し、その旺盛な消費によって、企業をさらに発展させる経済社会のことです。かつて日本の高度経済成長も、こうした層の厚い中産階級によって支えられてきました。しかしバブル崩壊以降、経営の軸足の置き方や就労構造が激変した結果、中産階級の二極化による格差社会が生まれ、かつての好循環が崩壊の危機を迎えています。

そこで今回の提言では、「企業家精神」「三面鏡経営」「5つのジャパン・ニューディール」をキーワードに、「好循環型社会」の再構築へ向けた道筋を示しました。

新たな成長産業の創出へ 経営者が勇気を持って 立ち上がろう

「企業家精神」と「三面鏡経営」とは、かつての反省を踏まえ、目先の利益ばかりにとられることなく、企業としての精神や理念、経営哲学などを大切にしようという原点回帰の提言です。特に、「三面鏡経営」では、「資本市場(株主)」「従業員(雇用)」「社会」という3つの価値を鏡と考え、常に自らの姿を映し、経営のバランスをとることで企業としての社会的責任をまっとうすることを説いています。

そして、今回の提言の主軸でもある「5つのジャパン・ニューディール」は、「少子高齢化社会」「環境」「水資源」「食」「ICT」という5つの切り口で、社会に貢献できる新たな事業創出の方向性を提唱したものです。これらはいずれも、日本が世界の先頭に立ってリーダーシップを発揮できるテーマでもあります。夢のある新事業の創出を通して、雇用の安定や適正な利益配分を行い、再び層の厚い中産階級を育てることで、「好循環型社会」の実現を目指します。

また、5つのニューディールには、それぞれオレンジ・ニューディール、グリーン・ニューディール、ブルー・ニューディールなどのカラーイメージを付加し、明るさや分かりやすさを演出しています。そもそも提言とは未来への希望を示すものであり、人々を元気にし、モチベーションを高めるものでなくてはなりません。まずは、経営者が勇気を出して一歩を踏み出し、それに公的な後押しが加わり、さまざまな知恵が集まれば、勢いが生まれ良い循環が始まるはず。今は、とにかく新たな成長産業を興さなくてはならない時であり、恐れずにチャレンジできる環境づくりや雰囲気づくりも大切だと考えます。

現在、社会の大きな変革期を迎えており、自分だけが儲ければよいという発想では今の不況を乗り越えることは不可能です。みんなが助け合って課題を解決できる社会にならなければなりません。「5つのジャパン・ニューディール」は、大きな課題に向かってみんなが力を結集できる非常によいきっかけになると考えています。

社会的責任経営委員会の提言
21-22ページに掲載